

自己評価					学校関係者評価				
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)		自己評価は			
学校運営方針	(1) 校訓「誠・敬・愛」 誠実で、礼儀正しく、自他を尊重する (2) 生徒のやる気を応援し、個性を伸ばす西田川高校!			A			A		
昨年度の成果と課題	令和 4 年度重点目標	具体的目標							
[成果] フレックス型単位制高校が開課程 2 年目となり、これまでの西田川高校の文化を伝承しつつ、「心のオアシス」として地域に信頼され愛されるとともに、校内に活気が満ちてきた。 [課題] (1) 全日制課程と一体化した学校運営と定時制課程単位制の教育活動の創造 (2) フレックス型単位制の良さを生かした教育活動の充実を図る。 (3) 全日制の開課程を見据え、西田川の職員 (定時・全日) としての連携を維持・強化し、チーム化を図る。 (4) 地域社会に開かれた教育課程づくり	(1) わかる授業の実践と積極的な授業改善による確かな学力の伸長	・講座出席率 8 割、単位修得率 8 割の実現及びカリキュラム・マネジメントの充実 ・観点別評価の充実により、欠席・遅刻・早退の減少を図り、授業を大切にすることを養う ・一人年 1 回の授業公開 (主体的な学び：導入、見通し、振り返りの工夫) と授業規律の向上				A		A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である	
	(2) 未来に活躍できる生徒の育成	・生徒一人ひとりに合った生徒支援を行い、特別な配慮が必要な生徒へ適切な生徒支援や積極的、柔軟な教育相談の実施 ・社会で必要な正しい言葉遣いや素直な心を持ち周りに配慮できる生徒の育成 ・基本的な生活習慣を整え、授業を大切にすること。 ・食育の充実と給食喫食の向上							
	(3) 自己理解を深め、将来ビジョンを描くためのキャリア教育の充実	・進路意識の育成 ・自己選択能力と自己決定能力の育成 ・キャリア・ガイダンスの充実 ・担任による個人面談の充実 ・教員の受講ガイダンス能力の向上							
	(4) 地域社会に開かれた教育課程づくり	・広報活動の推進 (広報物、インスタグラム、学校ホームページの充実) ・保護者教師会、同窓会、地域との連携強化							
	(5) 自他が認められ、一人ひとりの居場所が尊重される「心のオアシス」づくり	・言葉の環境を向上させるためのプロジェクト実施 ・人権学習の見直し (全体計画・年間計画・内容) ・人権・同和教育推進委員会の充実 (生徒の情報交換と具体的方策等)							
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会から意見		
教務部	・確かな学力の育成と授業規律の向上	わかる授業の実践、基礎・基本の徹底・充実。	A	A	・多様な生徒の入学に伴い、学力差のある生徒の入学が予想される。「わかる授業」の実践を軸に講座に沿った内容の授業展開を目指す。さらに、出席率の向上に向け、授業において生徒が達成感を味わえる場面の設定や観点別評価の実践の共有等を行い、学力の定着を図る。 ・単位制のみとなるので、分掌の確立と仕事内容の明確化を図っていく。	A	○確かな学力の育成のため、何のために何を学びたいかを早い時点で意識させ、目標達成のために日々の学びが大切であることが繋がるような教材研究等、教員の力に期待する。 ○教員が生徒の学習進度に合わせた対策を行い生徒もそれに応えている。		
		平常点を 3 ～ 4 割とし、授業に取り組む姿勢の醸成を図る。	A						
		授業見学月間並びに授業アンケート等の実施・教員への還元	B						
	・授業を大切にすることを養う	講座出席率 8 割、単位修得率 8 割の実現を図る。	B	B					
		欠席・遅刻・早退者への細やかな指導の充実。	A						
		時間厳守、始業・終業時の挨拶指導、丁寧な言語使いの指導	A						
・教職員の授業改善	観点別評価の導入による指導と評価の一体化を図る。	B	B						
	I C T 等を活用し生徒がわかる授業、達成感のある授業を目指す。	B							
生徒部	・挨拶の徹底と場に応じた言葉遣いを身に着けさせる	授業や学校生活で言葉遣いを大切にする。	B	A	・定時制の完成年度となる為、学校行事の運営を生徒会を中心に早めの計画を実施したい。 ・スクールカウンセリングや教育相談等の他の機関と連携し、特別な配慮が必要な生徒への支援を行っていく等、特別支援教育の充実を図る。 ・各分掌と連携し、学校全体で共通理解、情報共有を行い、生徒指導を行っていく。 ・職員の健康安全のための感染対策や職場環境を整える。	A	○挨拶や言葉遣いはとても大切な力であると考えている。これまで以上に、学校の中でも生徒や教職員が挨拶や言葉遣いを大切にしたい。 ○周辺の評価も高く、最初に入學式で感じた生徒の“おちつき”が持続しており、教員の努力と生徒の成長を感じる。		
		指導無視や暴言は許さない指導を行う。	A						
		教員側から積極的な挨拶を心掛ける。	A						
	・安心安全な学校作りに努める。	定期的に学校生活アンケートなどに取り組む。	A	A					
		担任面談・スクールカウンセリングを行う。	A						
		授業を大切にすること。	A						
	・心身の健康の保持増進のための適切な健康管理と保健指導を実施する。	「自らの健康は自ら守る」保健指導・保健室経営を行う。	A	A					
		特別な配慮が必要な生徒へ適切な支援を行う。	A						
		食育の充実、給食喫食率の向上を図る。	B						
	・快適で安全な学校生活のための校内の環境美化活動、感染症対策に努める。	全日制課程との協力・連携による清掃活動を実施する。	A	A					
ゴミの分別を徹底する。		A							
授業や、学校行事・特別活動等における適切な感染症対策を推進する。		A							
「総合的な探究の時間」と教科授業等の教育活動を有機的につなぐ。		B							
ガイダンス部	・キャリア教育の充実 (進路探究の深化)	生活体験作文を通して、生徒に自己の在り方や生き方を見つめさせる。	A	A	次年度は単位制の完成年度である。全日制の進路部の成果を引き継ぎ、さらに充実させるために次の取組を行う。 ・定期的な会議の実施 ・関係者を交えた「総合的な学習の時間」の会議の実施 ・新旧担任会の実施 ・さまざまなデータのストック作成 ・生徒にイベントに参加させる仕掛けづくり	A	○「総探」の中で生徒のニーズも取り入れつつ、他の授業との有機的な繋がりを検討することで、工夫や改善点が見えてくるのではないかと。 ○単位制第 1 期生の 2 年目が終了するが、非常に落ち着きがある。進学、就職に期待を持てる環境が醸成されているのを感じる。		
		「高大連携事業」により、生徒の自己実現や進学に対する意欲を高める。	A						
		教員が生徒と信頼関係をつくり、個人面談を充実したものにする。	A						
	・受講ガイダンス・登録の充実	教育課程を理解したうえで、キャリアカウンセリングを行う。	B						
		「総合的な探究の時間」やホームルーム活動で生徒に自分を見つめさせる。	A						

企画広報部	・学校行事をはじめ、学校刊行物等、校務運営の円滑化に寄与する。	関係分掌と連携して、学校行事の円滑化を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制・単位制のホームページを一本化する。 ・デザインや項目も刷新し、本校の魅力を広く発信できる、本校の情報を欲している人に必要な情報を届けることのできるホームページにする。 ・PTAの活動内容を整理し、新たな体制づくりをする。 	A
		学校発刊物の作成をする。（「学校要覧」「生活ガイドブック」）	A			
		交誼会の充実、職場環境の整備を行う。	A			
	・パンフレットやSNSを活用した効果的な広報を行う。	計画的な刊行物の発行を行う。	A	A		
		広報物の効果的な活用を計画・実施する。	B			
		インスタグラムやホームページの効果的な活用と更新を図る。	B			
・PTAや同窓会と連携し、教育活動の充実を図る。	PTA運営委員会、各種専門委員会等を実施し、PTA活動の充実を図る。	B	A			
	同窓会とのつながりを深め、教育活動の充実に努める。	A				
	地域と連携し教育活動の充実を努める。	A				
人権・同和教育推進／図書研修部	・人権が尊重される学校・学級づくりの推進	相手を尊重したコミュニケーションを、全職員・全生徒で実践し、良好な人間関係の基礎を築く。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、全日制は閉課程となるが、これまでの取り組みを定時制単位制に引継ぎ、人権が尊重された学校に向けて全職員、全生徒で取り組みを行っていく。 ・生徒主体の活動が行えるような体制を整える。 	A
		授業や学校行事、部活動等の生徒作品展等を通して、生徒一人ひとりの個性を尊重し、相互に認め合う集団づくりに取り組む。	A			
		人権に関する掲示物を設置し、生徒が人権について自ら考える機会を設ける。	A			
	・人権・同和教育推進体制の充実	人権教育全体計画を作成し全教科・全領域で人権教育が実施できる体制を作る。	A	A		
		人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、生徒情報の共有化を図り、生徒の修学（就学）を全職員で支援する体制を作る。	A			
		適時、校内職員研修会の実施し、校外研修への参加を促すことで本校職員の知的理解を深め、人権感覚を磨く体制をつくる。	A			
	・新しい学習観に基づいた力を育むための授業改善の推進	授業見学月間を設定し研究授業や公開授業を行う。	A	A		
		校内研修会において、各部との連携を図る。	B			
		各種校外研修への積極的な参加を推進する。	A			
	・校内職員研修会の企画・運営及び各種研修会への積極的参加の促進	オリエンテーションを実施し、図書館利用の促進を図る	A	A		
		子ども読書の日や、総合的な探究の時間等の読書活動の充実	B			
		年度総括を含め、研修・研究内容等をまとめる。	A			
新入年次	・豊かな人間性の育成	状況に応じた適切な言葉遣い・態度を考えさせ、社会の一員であることを自覚させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年次内で、学習指導、ガイダンス、生徒指導等の役割分担の充実を図り、それぞれ効率的に進めることができるようにする。 ・生徒の状況に応じて、適宜面談等を積極的に設定し、未然に様々な問題を解決したり、進路意識を高めたりする機会を持つ。 ・定期的に会議等を持ち、生徒情報の共有やHR活動 ・総探の打ち合わせが十分にできるようにする。 	A
		ルールやマナーを守る必要性を全ての教育活動をとおして伝える。	A			
		生徒と教員の信頼関係を強固にし、話し合える環境づくりをする。	A			
	・確かな学力の育成	生徒が授業に集中して臨めるように授業規律の徹底を図る。	A	A		
		小人数制の授業の中で個々に応じた授業を展開していく。	A			
		進路指導の充実を図り、希望進路の早期決定に向けて生徒と共に取り組む。	A			
在校年次	・自他を尊重する力の育成	生徒と教員の信頼関係を強固にし話し合える環境づくりをする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路についての取組 進路希望調査、個別指導の充実、個人面談の充実 職員の進路指導の向上 ・規律の確保 授業規律の見直し、社会人としての自覚の向上 ・教員間の情報共有 Googleカレンダーの活用、会議の充実 	A
		生徒が授業に集中して臨めるように、授業規律の徹底を図る。	B			
		ルールやマナーを守ることの必要性を全ての教育活動をとおして伝え、社会の一員であることを自覚させる。	B			
	・社会人として適切な言動ができる生徒の育成	敬語を使えることは社会人としてのマナーであることを伝える。	B			
		様々な問題や悩みを抱えた生徒と十分に話し合える環境づくりをする。	A			
		受講ガイダンスをとおして、生徒一人ひとりの進路意欲の涵養を図る。	A			

自己評価及び学校関係者評価の評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・講座出席率の向上と単位修得率向上を目指した細やかな指導の充実及び授業改善と評価の充実（「主体的な学び」の実現と「振り返り」の充実（ICTの効果的な活用と生徒の情報活用能力の向上、観点別評価の充実と評価と指導の一体化等） ・ガイダンス部における校内の進路指導体制の充実と生徒のきめ細やかな進路指導の推進を図る。（効果的な年間進路指導計画及び進路ガイダンス計画、生徒面談の充実、上級学校へのオープンキャンパスへの参加や応募前職場見学の実施等、単位制初の卒業生年次生への細やかな進路指導の充実） ・「総合的な探究の時間」における地域との更なる連携・協働及び持続可能な取組となるための工夫、「ホームルーム活動」を含めた年間進路指導計画の確立と受講ガイダンスの充実 ・福岡県立大学との高大連携事業の推進（講座受講による単位認定、大学見学会、大学教授等招聘講演会、オープンキャンパス参加、不登校支援サポートセンターとの連携等） ・本校教育活動の積極的な広報活動の推進（学校ホームページ及び公式Instagram、公式YouTubeの充実と更新、各種広報物の効果的な作成・配布・掲示等、効果的な説明会等の実施） ・組織的かつ即時的な情報共有とSC、SSW等外部専門家との組織的な連携及び柔軟な実施 ・人権が尊重される学校・学級づくりの推進及び人権・同和教育推進体制の継承（自他の尊重、効果的な人権学習、人権・同和教育推進委員会の定期的開催及び校内研修会等の実施等） ・校内職員研修会への企画・運営及び各種研修会への積極的参加の促進 ・教育資源の積極的活用及び発掘（地域人材、公共施設、立地環境、PTA、同窓会等） ・学校行事やPTA等の活動内容については、生徒会や保護者等と共に考える機会を設け、行事の在り方・実施について継続して検討していく。

A	<ul style="list-style-type: none"> ○広報物も特色が引き出された伝わり易いものが作成され、SNS等も積極的に活用した広報が展開されている。今後もSNSや広報物等を活用した発信を期待する。 ○PTAでは活動できる方が少ない中、広報誌コンクールは県内2位で九州地区、全国へ選出、評価されている。 ○ホームページの更新については、定期的に検証する必要性を感じる。
A	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒がいることから、それぞれがお互いを大切にできる関係ができることこそ、人権が尊重されることにつながると考える。教員の日々の関わりでの生徒の見守りやサポートをお願いする。 ○平準化した制服がなく、最初は心配した方々もいたようであるが、生徒たちの共通認識のようなものを感じた。授業中の落ち着きにもつながっている。 ○あまり差別という言葉が感じられない。
A	<ul style="list-style-type: none"> ○場に応じた言葉遣いや適切な敬語を使えた時等、その場でできた事について具体的に褒めてほしい。生徒が自分の強みを考える機会をできるだけ早期に検討して良いと考える。 ○徐々に西田川高校の生活に慣れて、良い意味で学校に染まっているのではないかと。
A	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の学校生活の中での言葉遣い等について、粘り強い働きかけを続けて頂きたい。 ○得意、不得意を教員と向き合い、学習力の向上と進路を見出す努力を感じた。

<p>評価項目以外のものに関する意見</p> <p>○単位制の完成年度を迎えることとなり、今後は部活動の更なる活躍を期待している。</p>
